

## 「種をまこう」を活用した授業 ～吉川中学校～

「いじめ」は「いじり」という、人権作文の感想を紹介します。

いじられキャラは決して愛されキャラではない。主人公は実際に周りの人にいじられ、嫌な思いをして、いじりはいじめと変わらない、と気が付いた・・・という内容の人権作文です。

・私は、仲の良い友達をよくいじったり、いじられたりしています。「あ、今のはやりすぎたかな」と思っても、皆笑っているからどんどん楽しくなり、いじりを超すことも何度かあったと思います。私は言葉でいじることが多いです。大切な友達に、たくさん心の傷をつけていたと考えるととても悲しいです。これからはその場の雰囲気にならず、言って良いことと駄目なことを区別をつけて、生活をしていきたいと思います。

・私はこのお話を読んで、私が6年生の時いじられていたことを思い出しました。私もよくいじられていて、はじめは一緒に楽しんでいただけで途中から嫌になったというか、怖くなってきました。なので、この作文の人たちにもすごく共感できます。仲の良い人にいじられて病みそうになったけれど、笑顔で猫をかぶっていました。一緒に遊ぶのも嫌でした。けれどそれに気づいてくれた友達が相談にのってくれたり、注意をしてくれたのでそれ以降なくなりました。この時色々気づかされたこともあって良い思い出となりました。友達など信頼できる人に相談したり、自分で言ったりして嫌な思いをする人が1人でも減れば良いな、と思いました。

・いじめているという意識がなくても、いじめられていると感じる人もいて、それは自分が声に出さなければ誰にも伝わらないと思った。もしひどいいじりをされてしまったら、いじっている人に直接嫌というのは難しいと思う。まずは、家族、いじってこない友達、先生に相談するべきだと考えた。誰かに話すことで、嫌と言える勇気が出ると思うからだ。いじっている人は、相手の気持ちをよく考えて行動することが必要だと感じた。

・私は学校でいじられることや避けられること、私に聞こえるような声の大きさと、陰口や悪口を言われることがあります。ですが、私は昔から気が強かったため、友達と「あれって何がしたいのだろうね？」と気にせず話しています。実際体験している私ですが、この「いじり」は「いじめ」をしっかり読んで、「これっていじめかな？」と少しでも私のことをいじっている人が、分かってくれたらうれしいです。そして、もし私の友達がいじられて辛い思いをしているのであれば、手を差しだしてあげたいと思いました。

・私は自分が友達にしてる行動を見直すべきだと思います。ただの軽いノリだとしても、相手は傷ついてしまえば、それはいじめと同じだと感じました。自分がされて嫌なことは絶対にしない、もししてしまったら必ずあやまることを心がけたいです。

